

筆記試験

【問題1】谷渡りの挿法について空欄にあてはまる語句を下の解答群から選び **記号で** 解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

p.33

1. 一株になって木に **タ.着生** している状況を描写しようというねらいで一株挿しが基本になっている。
2. **テ.傾斜** 型に花形構成し、8枚の偶数挿しにする。花留めを丸水盤の **セ.中心線上** に置き、一株挿しにする。主枝の長さは **キ.標準寸法**、副枝は主枝の **イ.4分の3**、中間に使う4枚の葉は主枝の **シ.3分の2**、小葉2枚は主枝の **ソ.2分の1** 以下とする。
3. 主・副を規定の位置に挿し、中間4枚は七宝の **ウ.縦穴** に挿して、**ア.輪状の株立ち** にし、その中心部に **ス.若い葉** の表現として小葉2枚を向かい合わせに挿す。

解答群

ア.輪状の株立ち	イ.4分の3	ウ.縦穴	エ. 直立	オ. 芽生え
カ.左奥	キ.標準寸法	ク. 扇を広げたような形	ケ. 標準	コ. 寄生
サ. 横穴	シ.3分の2	ス.若い葉	セ. 中心線上	ソ.2分の1
タ. 着生	チ. 任意	ツ.3分の1	テ. 傾斜	ト. 同寸

【問題2】「写景盛花様式本位」に定められた、下記の描写法・基本取り合わせを **記号で** 解答用紙に記入しなさい。(重複解答可能)

(5点×4)

p.64,65

	季節	描写法	取 合 せ
1	夏	キ. 近景	蓮 ・ ク. 河骨
2	夏	ウ. 中景	夏はぜ ・ オ.あざみ ・ 日蔭または山しだ

解答群

ア. ななかまど	イ. 海芋	ウ. 中景	エ. しゃが	オ. あざみ
カ. 姫百合	キ. 近景	ク. 河骨	ケ. 遠景	コ. 雪柳

【問題3】いけばな史・いけばな関連事項にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下の解答群から選び、**記号で** 解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

p.98

1.能阿弥

シ.室町 時代の連歌師、詩人。**ア.唐物目利き** の第一人者として足利義政の東山御物の整理、鑑定を行い、**タ.『君台観左右帳記』** を著したと、伝えられている。**エ.水墨画**、茶道、香道、などにも通じていた。

p.101

2.袁宏道

中国明時代末期の詩文家・文人。**カ.袁中郎** とも呼ばれる。広範な趣味をもち、**ソ.中国文人** の瓶花趣味を伝える専門の書 **チ.『瓶史』** を著した。

p.105

3.瓶花論

江戸時代 **セ.後期** の文人画家・**ウ.田能村竹田** が著した文人花の書。形式にこだわらず、名のあるものや華美を排し、簡素や風雅を好むこと、品格や瓶についての好みなど、独自の花論がすべて **キ.漢文** で述べられている。

解答群

ア. 唐物目利き	イ. 前	ウ. 田能村竹田	エ. 水墨画	オ. 御飾記
カ. 袁中郎	キ. 漢文	ク. 図	ケ. 書院造	コ. 挿花百練
サ. 文人	シ. 室町	ス. 田能村直入	セ. 後	ソ. 中国文人
タ. 君台観左右帳記	チ. 瓶史	ツ.水彩画	テ. 袁中道	ト. 安土桃山

P52 【問題1】燕子花の夏と秋の挿法の要点について、空欄に当てはまる正しい語句を解答群から選び文章を完成させなさい。なお、解答用紙には記号で答えること。(2点×10)

1. 燕子花・夏の挿法
春の ①ソ(水切り葉) がなくなり、②サ(五枚組) が三枚組になり、③ス(二枚組) の表組・裏組、三枚組を用いる。春より葉組を ④エ(高く) する。一株の最前列はすべて ⑤ア(三枚組) とする。葉組は下を締めて上を開き、⑥キ(花) は葉組の上に高く抜き出す。伸び伸びと成長した夏の旺盛な姿を表現する。
2. 燕子花・秋の挿法
垂れ葉、⑦ツ(折れ葉)、虫食い葉を葉組に混ぜる。⑧コ(実) を葉組の上に高く、花は葉組の間に ⑨タ(低く) 挿す。⑩ケ(夏) より株数は少なく、組葉を多く用いる。

解答群：ア. 三枚組 イ. 自然組 ウ. 早春 エ. 高く オ. 斜めに
 カ. 枯れ葉 キ. 花 ク. 巻き葉 ケ. 夏 コ. 実
 サ. 五枚組 シ. 少なく ス. 二枚組 セ. 葉 ソ. 水切り葉
 タ. 低く チ. 晩秋 ツ. 折れ葉 テ. 春 ト. 株

P64 -65 【問題2】夏・秋の写景盛花様式本位における基本取り合わせについて、解答群より正しいものを選びなさい。なお、解答用紙には記号で答えること。(5点×4)

	季節	描写法	取り合わせ
1	夏	遠景	小松・①オ(なでしこ)・日蔭
2	夏	中景	②ケ(夏はぜ)・あざみ・日蔭または山しだ
3	秋	遠景	③キ(米つつじ)・小菊・日蔭
4	秋	近景	苔つつじ・女郎花・④イ(竜胆)・日蔭・紅葉

解答群：ア. 木瓜 イ. 竜胆 ウ. しゃが
 エ. 姫百合 オ. なでしこ カ. われもこう
 キ. 米つつじ ク. ななかまど ケ. 夏はぜ

【問題3】いけばな史・いけばな関連事項について、空欄に当てはまる正しい語句を解答群より選びなさい。なお、解答用紙には記号で答えること。(2点×10)

P107 1. 琳派作家と代表作について、対応するものを選び空欄を埋めなさい。

作家名	代表作
酒井 抱一	①サ(夏秋草図屏風)
②テ(本阿弥 光悦)	舟橋蒔絵硯箱
③キ(尾形 乾山)	錆藍金絵替皿
鈴木 其一	④チ(夏秋溪流図屏風)
⑤コ(尾形 光琳)	八橋蒔絵硯箱

P116 2. 五節供について
五節供は、中国で奇数の重なる日に行われていた厄払いの行事に由来する。日本に伝わってからは、さまざまな習俗と結びついて、季節の節目を祝う行事となった。⑥ト(江戸幕府) が式日(祝日) と定める際、1月は元日に代わり⑦ク(人日) が選ばれたようである。それぞれの行事には、邪気を払うとされる季節の植物が定められており、9月の⑧セ(重陽) は菊、7月の七夕は笹・⑨タ(梶) である。植物の名前を冠して、⑩イ(上巳) を「桃の節句」などと呼ぶこともある。

解答群：ア. 紅白梅図屏風 イ. 上巳 ウ. 室町幕府 エ. 桔梗 オ. 俵屋 宗達
 カ. 白露 キ. 尾形 乾山 ク. 人日 ケ. 大寒 コ. 尾形 光琳
 サ. 夏秋草図屏風 シ. 蓮 ス. 関屋図屏風 セ. 重陽 ソ. 穀雨
 タ. 梶 チ. 夏秋溪流図屏風 ツ. 伊藤 若冲 テ. 本阿弥 光悦 ト. 江戸幕府

筆記試験

P.30、38

【問題1】色彩盛花様式本位は定められた主材と挿法にもとづいて、花材の典型的な色彩美を表現する技法である。
以下の主材について、空欄にあてはまる語句を下の解答群から選び記号で解答用紙に記入しなさい。(2点×10)

主材/挿法	花型	挿法
菊の三種挿し	直立型	一輪咲きの① <i>イ中菊</i> 3種類(黄5本、赤3本、白3本)を用いることが基準。直立型に花型構成し、主枝・副枝・中間枝に黄色、客枝・中間枝に白、中間に赤系統の花色とする。直立型の花型の基本を守って挿すが、主枝・副枝の② <i>ア前後</i> の奥行きより、副枝・客枝への③ <i>オ左右</i> の広がりが長くなるように構成しなければならない。
紫苑	④ <i>カ直立型</i>	花を中心に大葉を三方から⑤ <i>セ長短</i> をつけて挿し添え、主枝の花は葉より⑥ <i>サ高く</i> 使う。副枝は葉でとるように構成し、花は基準よりやや⑦ <i>テ起こし</i> 気味に挿す。
万年青	直立型	葉は8枚の⑧ <i>キ一株</i> 挿しにする。写景盛花様式本位との違いは⑨ <i>ト子株</i> の8番目の葉の扱いと⑩ <i>コ実</i> の挿し位置である。

解答群

ア. 前後	イ. 中菊	ウ. 小菊	エ. 低く	オ. 左右
カ. 直立型	キ. 一株	ク. 傾斜型	ケ. 横	コ. 実
サ. 高く	シ. 組葉	ス. 空間美	セ. 長短	ソ. 親株
タ. 葉組	チ. 縦	ツ. 傾け	テ. 起こし	ト. 子株

P.65

【問題2】「写景盛花様式本位」に定められた、下記の描写法・基本取り合わせを記号で解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

	季節	描写法	基本取合せ
1	秋	遠景	① <i>ア米つつじ</i> 、② <i>エ小菊</i> 、日蔭
2	秋	近景	③ <i>キ苔つつじ</i> 、④ <i>コ女郎花</i> 、竜胆、日蔭、紅葉

解答群

ア. 米つつじ	イ. ほととぎす	ウ. 燕子花	エ. 小菊	オ. 中菊
カ. 薄	キ. 苔つつじ	ク. われもこう	ケ. 河骨	コ. 女郎花

【問題3】いけばな史・いけばな関連事項にあらわれる次の事項について、
空欄に当てはまる語句を下の解答群から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。(2点×10)

1. 『花王以来の花伝書』(1486)

室幕時代初期のいけばなの秘文と花形絵を記録した日本最古の花書。
『①*コ仙伝抄*』よりも古い花論や技法の記述が認められる。

2. 『The Floral Art of Japan』(1891)

②*オ明治*時代に来日した③*エ英国*人④*ト建築家*ジョサイア・コンドルが日本のいけばなを海外へ紹介したもの。いけばなついて英語で書かれた最初の書といわれ、西欧を中心にして、多くの外国人に読まれた。

3. 酒井抱一 さかいほういつ

⑤*テ江戸*時代後期の⑥*カ画家*、俳人。姫路藩主・酒井忠以の弟。尾形光琳ら京都の琳派の画風を再興し、後に「⑤*テ江戸*琳派」と呼ばれる繊細で洗練された表現を確立した。代表作に《⑦*シ夏秋草*図屏風》などがある。

4. いけばな史におけるいけばな様式の変遷を下の表へ古いものから順に並べなさい。

年代順	1	2	3	4	5
いけばな様式	⑧ <i>ケ供花</i>	立て花	⑨ <i>ウ立華</i>	⑩ <i>タ文人花</i>	盛花

ア. 室町	イ. 御飾記	ウ. 立華	エ. 英国	オ. 明治
カ. 画家	キ. 僧侶	ク. 歌人	ケ. 供花	コ. 仙伝抄
サ. 書家	シ. 夏秋草	ス. 瓶花論	セ. 夏秋溪流	ソ. 瓶花
タ. 文人花	チ. 米国	ツ. 宣教師	テ. 江戸	ト. 建築家

P.18

【問題1】 写景盛花の定義と特徴について、正しいものを下から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。

4.5 は順不同、選択肢は重複選択可能です。（2点×10）

■写景盛花

定義：自然の **1. エ（風致景觀）** を **2. チ（限られた）** 器の中に描写する盛花で、様式本位と自然本位とがある。

写景盛花様式本位：花材の **3. キ（出生）** をふまえ、限られた取合せと定められた挿法によって景觀美を表現する技法

写景盛花自然本位：花材の **4. キ（出生）**・環境・**5. オ（季節感）** をふまえ、景觀美を表現する技法

4.5 は順不同

	様式本位	自然本位
描写法	遠景・中景・近景がある	特定の定めはない
挿法	定められた挿法によって景觀美を 6. ケ（定型的） に表現する	7. カ（自由な） 挿法により 8. ウ（主観的） な景觀美を表現する
取合せ	基本取合せ 9. ア（47） 種が定められ、それを基準とした取合せをする	写景描写にふさわしい 10. カ（自由な） 取合せがなされる

解答群

ア. 47
イ. 美観
ウ. 主観的
エ. 風致景觀
オ. 季節感

カ. 自由な
キ. 出生
ク. 色彩
ケ. 定型的
コ. かたち

サ. 51
シ. 限定的
ス. 環境
セ. 客観的
ソ. 定められた

タ. 49
チ. 限られた
ツ. 佳景
テ. 主観
ト. 45

P.64

【問題2】 春の写景盛花様式本位の基本取合せを下の解答群から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。

選択肢は重複選択できません。（5点×4）

	描写法	取 合 せ
1	遠景	桜 1. エ（菜の花） 日蔭
2	遠景	雲竜柳 2. ケ（燕子花） 日蔭
3	中景	小松 3. ウ（乙女百合） 日蔭
4	近景	いちはつ 4. キ（都忘れ） 日蔭

解答群

ア) すずらん
イ) 錦紅花つつじ
ウ) 乙女百合

エ) 菜の花
オ) 紫蘭
カ) 春蘭

キ) 都忘れ
ク) 貝母
ケ) 燕子花

P.78

【問題3】 技法と表現・いけばな史・いけばな関連事項について、空欄に当てはまる語句を下の解答群から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。選択肢は重複選択できません。（2点×10）

1. 万葉集は日本最古の和歌集で **① セ（奈良時代）** に編纂されたと考えられている。 **②サ（4500）** 首以上が収録され、そのなかには **③ ケ（150）** 種を超える植物が詠まれている。

P.96

2. なげ入れ花は、 **④ カ（立て花）** のようにしんを立てる形式とは異なる花形で、生活用器を花器として用い、ごく自然に花を挿し入れたような形の花。時代が下るにつれ、その形式にも異なりのあることから、元禄時代前、貞享までのものを **⑤ チ（なげいれ花）**、**⑥ツ（元禄）** から近代までのものを **⑦ キ（抛入れ花）**、現在のものを **⑧ ソ（投入花）** と使い分けることも多い。

p.114

3. 漆を **⑨ コ（木製）** の器物に塗って用いる漆器は、英語で **⑩ タ（JAPAN）** というほど、日本の代表的な工芸となっている。

解答群

ア. 平安時代
イ. 250
ウ. 寛永
エ. 光悦蒔絵
オ. 生花

カ. 立て花
キ. 抛入れ花
ク. 立華
ケ. 150
コ. 木製

サ. 4500
シ. 5500
ス. 樹脂
セ. 奈良時代
ソ. 投入花

タ. JAPAN
チ. なげいれ花
ツ. 元禄
テ. 貞享
ト. NIPPON

2025. 3. 29

一般財団法人 小原流

P.19 【問題1】 瓶花の定義と特徴・燕子花の季節ごとの挿法の要点について、正しいものを下から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。2～4は順不同です。選択肢は重複選択できません。（2点×10）

■瓶花

定義：瓶や壺などの高さのある器に、花材の自然な趣を生かしていけるいけばな。

特徴 1. 自然の趣を生かす、1. ト（なげいれ花）を現代的に解釈し、洗練し直したもの。
2. 2. ウ（傾斜型）・3. タ（直立型）・4. ケ（下垂型）」の三つの花型があるが、型にとらわれずにいけることもできる。 2～4は順不同

3. 季節感や5. オ（色彩）の美しさなどを表現する。

P.52 ■燕子花の季節ごとの挿法の要点

季節	挿法の要点
早春	自然組と水切り葉を使う。日蔭を敷く。花は春より6. ア（低く）挿す。
春	葉組の丈は7. サ（低め）にし、下は8. カ（広く）上は9. キ（締まる）ように、ふっくらと組む。 花は葉組の間に10. ツ（覗き見る程度）に低く挿す。

解答群 ア. 低く カ. 広く サ. 低め タ. 直立型
 イ. 立華 キ. 締まる シ. 狭く チ. 投入花
 ウ. 傾斜型 ク. 立華 ス. 広がる ツ. 覗き見る程度
 エ. 高く ケ. 下垂型 セ. 高め テ. はっきり見えるよう
 オ. 色彩 コ. 風情 ソ. 観水型 ト. なげいれ花

P.64.65 【問題2】 季節別の燕子花の基本取合せを下の解答群から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。2.3は順不同です。選択肢は重複選択できません。（5点×4）

	季節	取 合 せ
1	春（早春）	燕子花 1. オ（日蔭）
2	夏	燕子花 2. ケ（河骨） 3. キ（睡蓮） 2.3は順不同
3	秋	燕子花 4. ウ（太藺） 河骨

解答群 ア) 海芋 エ) 桔梗 キ) 睡蓮
 イ) 竜胆 オ) 日蔭 ク) 蓮
 ウ) 太藺 カ) 山しだ ケ) 河骨

【問題3】 技法と表現・いけばな史・いけばな関連事項について、空欄には当てはまる語句を下の解答群から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。選択肢は重複選択できません。（2点×10）

P.96 1. なげいれ花は、① カ（立て花）のようにしんを立てる形式とは異なる花形で、生活用器を花器として用い、ごく自然に花を挿し入れたような形の花。時代が下るにつれ、その形式にも異なりのあることから、元禄時代前、貞享までのものを② チ（なげいれ花）、③ テ（元禄）から近代までのものを④ キ（抛入れ花）、現在のものを⑤ソ(投入花)と使い分けることも多い。

P.100 2. 西川一草亭は、⑥ ト（明治～昭和）期の華道家。⑦ ス（去風流）家元。文人いけを伝える家元の家に生まれ、若年より文学・美術に傾倒し、多くの知識人の知己を得て、近代における文人花の世界を築いた。主宰した雑誌⑧ ウ（『瓶史』）と彼の花論は多くの華道家に影響を与えた。

P.105 3. 『抛入狂花園』は、⑨ コ（江戸時代）中期、⑩ ツ（蓬萊山人）が編さんした、抛入れ花の花書。自然の花でないものを素材にして、生花の常識を破る、風刺と滑稽を主眼にした作品集。

解答群 ア. 寛永 カ. 立て花 サ. 『瓶花論』 タ. 江戸～明治
 イ. 未生流 キ. 抛入れ花 シ. 十一屋太右衛門 チ. なげいれ花
 ウ.『瓶史』 ク. 立華 ス. 去風流 ツ. 蓬萊山人
 エ. 田能村竹田 ケ. 龍生派 セ. 室町時代 テ. 元禄
 オ. 生花 コ. 江戸時代 ソ. 投入花 ト. 明治～昭和

筆記試験

【問題1】花意匠・花奏・花舞の定義と、写景盛花様式本位の挿法について、空欄にあてはまる語句を

下の解答群から選び、**記号で**解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

p.15,16

- 1.「**花意匠**」は、①**カ.生活空間**に対応し、花材の個性を生かして②**ス.デザイン的**に構成するいけばなである。
 「**花奏**」正面を定め、挿し位置から内側へ働く花材相互の③**コ.交差美**を主体として立体的に表現するいけばな。
 「**花舞**」④**ア.自由な花材**の選択により、花材相互の関係から生まれる植物の立体的な美しさを表現するいけばな。

p.42

2. 写景盛花様式本位の挿法

木瓜・芽出し紫陽花など、⑤**シ.中景**描写で低木状の茂みになった⑥**エ.木々の姿**を表現する際の技法。

⑦**オ.直立型または傾斜型**に花型を構成する。主枝・副枝・中間の⑧**ツ.根元**を寄せて挿す技法ではあるが、遠景の一本挿しよりは⑨**ケ.挿し口**をゆるやかにする。万年青や河骨など、株になって生えている状態を表現するものも、⑩**チ.一株挿し**と呼ぶ。

解答群

ア.自由な花材	イ.傾斜美	ウ.全体	エ.木々の姿	オ.直立型または傾斜型
カ.生活空間	キ.大樹の姿	ク.意匠的	ケ.挿し口	コ.交差美
サ.直立型	シ.中景描写	ス.デザイン的	セ.自由な器	ソ.一種挿し
タ.遠景	チ.一株挿し	ツ.根元	テ.時代	ト.空間

【問題2】写景盛花様式本位における、秋の基本取り合わせと描写法について空欄にあてはまる語句を下の

解答群から選び **記号で** 解答用紙に記入しなさい。

(5点×4)

p.65

描写法 (① ア.近景)	秋の多種挿し	薄・女郎花・② エ.竜胆 ・③ キ.われもこう ・日蔭
	秋の散り紅葉	④ カ.苔つつじ ・女郎花・②・日蔭・紅葉

解答群

ア.近景	イ.中景	ウ.小菊	エ.竜胆
カ.苔つつじ	キ.われもこう	ク.尾花	ケ.鶏頭

【問題3】いけばな史・いけばな関連事項にあられる次の事項について、空欄にあてはまる語句を下の

解答群から選び、**記号で**解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

p.93 1.小原流歴代家元の業績 四世家元 小原夏樹

創流①**ケ.90**周年に、現代の②**キ.建築空間**に合った、立体的で清新な「花舞」を制定し、③**シ.四方**から観賞できるいけばなを創案。

2. 花伝書・いけばな関連書『宗清花伝書』

p.103

1529年に相伝された④**ア.たて花**の伝書。11瓶の④の花形を図で示し、それぞれの花には題と⑤**ソ.秘文**がつけられている。三つ具足、⑥**サ.釣花瓶**などのしつらえ、⑦**ツ.竹**や蓮などの花材についてなど、15項目が記されている。

p.115

3. 花器の歴史『籠』

⑧**オ.細い竹**(籐、あけび、柳なども)を編み、⑨**タ.漆**をコーティングして作られる籠。⑩**コ.唐物籠**、和物籠に分類される。

解答群

ア.たて花	イ.100	ウ.上	エ.書院造	オ.細い竹
カ.宋物籠	キ.建築空間	ク.睡蓮	ケ.90	コ.唐物籠
サ.釣花瓶	シ.四方	ス.瓶花趣味	セ.墨	ソ.秘文
タ.漆	チ.名前	ツ.竹	テ.建築基準	ト.靱皮繊維

筆記試験

【問題1】表現の定義と谷渡りの挿法について、空欄にあてはまる語句を下の解答群から選び、**記号で**

p.27

解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

1. 表現の定義

「造形いけばな」自由な発想により、素材の持つ、①カ.機能的特徴を生かした創作いけばな。

「自由表現」花材の植物としての姿を生かした②ス.型のないいけばな、および、その姿を③ト.変貌させたいけばな。

「小品花」少ない花材で、④ウ.省略の美を表現する高度ないけばな。

p.33

2. 谷渡りの挿法

⑤テ.傾斜型に花型構成し、⑥オ.8枚の偶数挿しにする。葉に大小長短の差をつけ、主枝は標準寸法、副枝は主枝の⑦キ.4分の3、中間に使う4枚の葉は主枝の⑧ケ.3分の2、小葉2枚は主枝の⑨サ.2分の1以下とする。主・副を規定の位置に挿し、中間4枚は二つ付七宝の縦穴に挿して、輪状の株立ちにし、その中心部に⑩タ.若い葉の表現として小葉2枚を向かい合わせに挿す。

解答群	ア.新芽	イ.世界観	ウ.省略の美	エ.花材的特徴	オ.8枚の偶数
	カ.機能的特徴	キ.4分の3	ク.進化	ケ.3分の2	コ.9から13の奇数
	サ.2分の1	シ.3分の1	ス.型のない	セ.4分の1	ソ.5分の1
	タ.若い葉	チ.自由選択	ツ.直立型	テ.傾斜型	ト.変貌

【問題2】写景盛花様式本位の冬における基本取合せについて、空欄にあてはまる花材を下の解答群から選び

p.66

記号で解答用紙に記入しなさい。

(5点×4)

冬	遠景	主材:①エ.小松	①エ.小松・寒菊(小菊)・日蔭
	中景	主材:②カ.実南天	②カ.実南天・寒菊(小菊)・日蔭
	近景	主材:③イ.敷き松葉	④ク.藪柑子・日蔭・枯れ松葉

解答群	ア.万年青	イ.敷き松葉	ウ.石化柳	エ.小松
	カ.実南天	キ.水仙	ク.藪柑子	ケ.五葉松

【問題3】いけばな史・いけばな関連事項にあらわれる次の事項について、空欄にあてはまる語句を下の解答群から選び、**記号で**解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

p.91

1. 小原流歴代家元の業績 二世家元 小原光雲

時代に合わせていけばなの指導法を革新した。一般のいけばな水準を高めようという意図のもと、

「①カ.国風会」組織がつくられた。こうした背景のもとに、②ウ.一斉教授法の開発がなされ、新聞・雑誌・③セ.ラジオなどでいけばな指導をするという画期的な方法がとられた。

p.96

2. 生花(せいか/しょうか)

④チ.江戸時代に成立したいけばな様式の一つ。⑤オ.西洋草花を花材として取り入れた新しいいけばなが出現したのに伴い、いけばなの一様式として区別するため明治以降「せいか」と呼ぶようになった。

⑥ス.池坊では立華を略した小花の意から「しょうか」と呼んでいる。

p.106

3. 琳派絵画と代表画家

琳派とは、⑦キ.近世装飾画の一派で、本阿弥光悦、⑧テ.俵屋宗達を源流として、伝統的な⑨サ.大和絵を近世に復興した。主題は圧倒的に⑩ケ.植物花卉図が多く、その特徴は装飾的で意匠的な表現にある。

解答群

ア. 明治	イ.山野の草木	ウ.一斉教授法	エ.未生流	オ. 西洋草花
カ.国風会	キ.近世装飾画	ク.植物絵	ケ.植物花卉図	コ.いけばな芸術協会
サ.大和絵	シ.テレビ	ス.池坊	セ.ラジオ	ソ.田能村竹田
タ.中国絵画	チ.江戸	ツ.南宗画	テ.俵屋宗達	ト.専門教授

P54 【問題1】 写景盛花様式本位における燕子花と花菖蒲との挿法の相違点について、空欄に当てはまる正しい語句を解答群から選び文章を完成させなさい。なお、解答用紙には記号で答えること。(2点×10)

1. 燕子花

葉組は1.カ(早春)から晩秋までの挿法があり、二枚組の表組・裏組、2.サ(中低)に組んだ三枚組を用い三枚組は花菖蒲よりふっくらとなる。3.セ(葉)が主眼となり三株挿しに花は2本、五株挿しに花3本、七株挿しに花5本程度。季節によっては花が葉組より低く挿される。4.ク(高木)や低木類と日蔭に取り合わせることがあり、季節によっては5.ソ(自然組)のこともある。

2. 花菖蒲

葉組は6.ア(夏)の挿法のみが定められており、二枚組の表組・裏組、7.オ中高の三枚組が用いられる。葉の長短は燕子花に比べて小さい。8.キ(花)を觀賞する面が強く、三株挿しに花9.ス(3～5)本、五株挿しに花5～7本、七株挿しに花7～9本で、葉組より高く挿される。10.ツ(水生・水辺植物)と取り合わせがなされ、必ず葉組をする。

解答群：ア. 夏	イ. 晩秋	ウ. 晩春	エ. 高低	オ. 中高
カ. 早春	キ. 花	ク. 高木	ケ. 葉組	コ. 2
サ. 中低	シ. 野もの	ス. 3～5	セ. 葉	ソ. 自然組
タ. 低木	チ. 4～5	ツ. 水生・水辺植物	テ. 花木類	ト. 山もの

P64 -65 【問題2】 夏の写景盛花様式本位における基本取り合わせについて、解答群より正しいものを選びなさい。なお、解答用紙には記号で答えること。(5点×4)

	描写法	主材	取り合わせ
1	中景	夏はぜ	夏はぜ・①ア(あざみ・日蔭または山しだ)
2	近景	しゃが	しゃが・②カ(あざみ・日蔭)
3	近景	睡蓮	睡蓮一種または③ク(雪柳・太藺)・睡蓮
4	近景	夏の多種挿し	夏はぜ・④キ(笹百合・なでしこ・鳴子百合)・桔梗

解答群：ア. あざみ・日蔭または山しだ	イ. 姫百合・日蔭または山しだ	ウ. 河骨
エ. 姫百合・桔梗	オ. なでしこ・日蔭	カ. あざみ・日蔭
キ. 笹百合・なでしこ・鳴子百合	ク. 雪柳・太藺	ケ. 夏はぜ・姫百合

【問題3】 いけばな史・いけばな関連事項について、空欄に当てはまる正しい語句を解答群より選び文章を完成させなさい。なお、解答用紙には記号で答えること。(2点×10)

1. 文人画について

中国における文人画の最盛期は1.タ(北宋)の時代(960～1127年)で、様式や主題はさまざまであった。のちに元末の四大家があらわれると細い柔らかい筆を積み重ねた山水画を描くようになり、それが文人画の中心となった。このように一定の様式が定まったものを後世に2.コ(南宗画)と呼ぶようになった。一方、日本で文人画が起こったのは18世紀、3.チ(江戸中期)を過ぎたところである。文人というのは、本来身分・階級にちなんだ名称であるが、日本には存在しないため、中国と日本の違いを考慮して日本における文人画を4.シ(南画)と呼ぶようになり、現在ではこの呼称も広く使われている。5.サ(柳沢淇園)は日本の文人画の先駆者として知られており、長崎派に学んだ精緻で写實的な彩色画のほか、指で描いた墨竹にも優れた。

2. 日本のやきものについて

桃山時代には茶の湯の台頭により、新しい6.テ(茶陶)というジャンルが登場した。焼き締め陶の備前・伊賀に加え、7.キ(美濃地方)では、黄瀬戸・瀬戸黒・織部・8.オ(志野)などの日本独自の施釉の器が生まれた。文禄・慶長の役(16世紀末)で朝鮮半島から多数の陶工が渡来し、九州北部で唐津焼、9.ソ(上野焼)、高取焼など多くの焼き物がつくられた。その他にも、山口の萩焼や、長次郎による京都の10.ア(楽焼)、鹿児島島の薩摩焼などがおこった。

解答群：ア. 楽焼	イ. 南宋	ウ. 明	エ. 江戸後期	オ. 志野
カ. 尾張地方	キ. 美濃地方	ク. 中国地方	ケ. 古伊万里	コ. 南宗画
サ. 柳沢淇園	シ. 南画	ス. 迷語画題	セ. 琳派絵画	ソ. 上野焼
タ. 北宋	チ. 江戸中期	ツ. 池大雅	テ. 茶陶	ト. 京焼

筆記試験

【問題1】 写景盛花様式・自然本位と写景盛花様式の遠近描写法について空欄にあてはまる語句を下の解答群から選び**記号で**解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

- p.18 1. 写景盛花様式本位は、花材の出生をふまえ、限られた①**ク.取合せ**と定められた②**セ.挿法**によって景観美を表現し、写景盛花自然本位は、花材の出生・③**テ.環境**・季節感をふまえ、④**ア.主観**を交えて景観美を表現する。
- p.39 2. 写景盛花様式の遠近描写法で遠望する⑤**タ.大樹**の姿、中景は枝ぶりよく生い茂る木々の姿、近景は眼前の草花や、木では枝ぶりや花・葉の美しさを描写の主体とする。遠景描写に⑥**オ.一木挿し**・縮小挿法、中景描写に⑦**イ.一株挿し**、近景描写に⑧**ト.水もの**の葉組・株挿しなどの定められた挿法がある。植物を高木・低木・⑨**コ.草花**に大別し、遠景・中景・近景の⑩**シ.目的**に合った取合せが定められている。

解答群

ア.主観	イ.一株挿し	ウ.情景	エ.趣	オ.一木挿し
カ.組み合わせ	キ.枝	ク.取合せ	ケ.創作	コ.草花
サ.水性植物	シ.目的	ス.灌木	セ.挿法	ソ.蓮一種
タ.大樹	チ.一種挿し	ツ.構成	テ.環境	ト.水もの

【問題2】 色彩盛花様式本位における、菊の三種挿しの挿法の要点について空欄にあてはまる語句を下の解答群から選び**記号で**解答用紙に記入しなさい。

(5点×4)

1. 一輪咲きの中菊3種類(黄 5 本、赤 3 本、白 ①**エ.3** 本)を用いることが基準。②**ケ.直立型** に花型構成し、主枝・副枝・中間枝に ③**オ.黄色**、客枝・中間枝に白、中間を赤系統の花色とする。②**ケ.直立型** の花型の基本を守って挿すが、主枝・副枝の前後の奥行きより、副枝から客枝への左右の広がりの方が ④**ウ.長くなる** ように構成しなければならない。

解答群

ア.赤	イ.傾斜型	ウ.長くなる	エ.3	オ.黄色
カ.5	キ.短くなる	ク.白	ケ.直立型	コ.低くなる

【問題3】 いけばな史・いけばな関連事項にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下の解答群から選び、**記号で**解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

1. 小原流歴代家元の業績 流祖 小原雲心

- ①**キ.明治中期**に、盛花を創案し、近代いけばなの基礎を築いた。技術的な点からいえば、②**ア.1点**の挿し口から③**ツ.面**の挿し口に変化した。

2. 『御飾記(おかざりき)』

室町時代の座敷飾りの秘伝書で、④**ト.相阿弥**が著したもの。内容は足利義政の東山山荘と、足利義尚の小川邸における座敷飾りの詳細で、⑤**オ.**『東山殿御飾記』とも呼ぶ。④は、諸芸に通じ⑥**サ.東山期**を代表する文化人として知られる。

3. 室礼と花

いけばなは、室町時代に生まれた⑦**ウ.書院造**を背景に、座敷飾りの花から発展してきた。当初は、押板床の壁面に三幅対(または⑧**セ.五幅対**)の画幅を掛け、卓に載せた三具足(⑨**ク.香炉**、⑩**チ.燭台**、花瓶)を飾った。

解答群

ア.1点	イ.富阿弥	ウ.書院造	エ.明治後期	オ.『東山殿御飾記』
カ.中心	キ.明治中期	ク.香炉	ケ.北山期	コ.多方向へ
サ.東山期	シ.「仙伝抄」	ス.白檀	セ.五幅対	ソ.三尊仏
タ.棚飾り	チ.燭台	ツ.面	テ.堆朱	ト.相阿弥

【問題1】色彩盛花様式本位におけるアマリリス・谷渡りの挿法と要点について、空欄に当てはまる正しい語句を解答群から選び文章を完成させなさい。なお、解答用紙には記号で答えること。(2点×10)

1. アマリリス

花を中心に葉を①テ(三方)から②サ(長短)をつけずに挿し添え、主枝の花は葉より③エ(高く)使う。④カ(副枝)は葉でとるように構成し、④の花は基準よりやや⑤イ(起こし)気味に挿す。

2. 谷渡し

葉は⑥キ(8)枚の⑦オ(株挿し)にする。⑧チ(6)枚の葉を⑨ツ(輪状)に挿し、中心に若い葉2枚を⑩ス(向かい合わせ)に挿す。七宝への挿し位置の規定がある。

解答群：ア. 客枝 イ. 起こし ウ. 扇状 エ. 高く オ. 株挿し
カ. 副枝 キ. 8 ク. 同寸 ケ. 傾け コ. 二株挿し
サ. 長短 シ. 多く ス. 向かい合わせ セ. 4 ソ. 10
タ. 低く チ. 6 ツ. 輪状 テ. 三方 ト. 二方

【問題2】秋・冬の写景盛花様式本位における基本取り合わせについて、解答群より正しいものを選びなさい。
なお、解答用紙には記号で答えること。(5点×4)

	季節	描写法	取り合わせ
1	秋	近景	①. <u>キ(ほととぎす)</u> ・小菊・日蔭
2	秋	中景	②. <u>ア(木瓜)</u> ・竜胆・日蔭
3	冬	遠景	③. <u>ウ(小松)</u> ・寒菊(小菊)・日蔭
4	冬	近景	④. <u>オ(水仙)</u> ・寒菊(小菊)・日蔭

解答群：ア. 木瓜 イ. 実南天 ウ. 小松
エ. 米つつじ オ. 水仙 カ. われもこう
キ. ほととぎす ク. 女郎花 ケ. 藪柑子

【問題3】いけばな史・いけばな関連事項について、空欄に当てはまる正しい語句を解答群より選びなさい。
なお、解答用紙には記号で答えること。(2点×10)

1. 袁宏道について

中国①ス(明)時代末期の詩文家・文人。袁中郎とも呼ばれる。広範な趣味をもち、中国文人の瓶花趣味を伝える専門の書『瓶史』を著した。本書は、瓶花の心得と②チ(鑑賞)について記し、中国のいけばな書として日本人に最も親しまれた。

2. 『瓶史』について

本書で述べられている中国の插花習俗は、詩文や③ソ(煎茶)の嗜みとともに日本へ伝えられ、④エ(江戸)時代の文筆家や画家など、当時の文化人の花として広まることになった。憧れの中国趣味の生活、⑤テ(文房)生活の一環として花をたしなんだ彼らにとっては、厳密な花の規則などより、専ら花の個性や⑥タ(自然感)をそのまま生かすことが重視された。

3. 中国のやきものについて

宋時代には定窯の⑦セ(白磁)、龍泉窯の⑧コ(青磁)、建窯の天目釉製品などがつくられた。元時代にはペルシアの影響を受けてコバルトで絵付けをした⑨キ(青花)が生まれ、その代表的な生産地は⑩シ(景德鎮)である。

解答群：ア. 室町 イ. 元 ウ. 茶道 エ. 江戸 オ. 青白磁
カ. 清 キ. 青花 ク. 越州窯 ケ. 三彩 コ. 青磁
サ. 挿法 シ. 景德鎮 ス. 明 セ. 白磁 ソ. 煎茶
タ. 自然感 チ. 鑑賞 ツ. 隠遁 テ. 文房 ト. 絵画

P18 【問題1】写景盛花の定義と相違点について、空欄に当てはまる正しい語句を解答群から選び表を完成させなさい。
なお、解答用紙には記号で答えること。(2点×10)

	①タ(様式本位)	②ツ(自然本位)
③コ(描写法)	遠景・中景・近景がある	特定の定めはない
挿法	④ソ(定められた)挿法によって⑤サ(景観美)を⑥ア(定型的)に表現する。	⑦エ(自由な)挿法によって⑧キ(主観的)な⑤を表現する。
取合せ	基本取り合わせ⑨ケ(47)種が定められ、それを基準とした取合せをする。	⑩ス(写景描写)にふさわしい⑦取合せがなされる。

解答群：ア. 定型的 イ. 表現法 ウ. 49 エ. 自由な オ. 景観描写
カ. 自然美 キ. 主観的 ク. 様式的 ケ. 47 コ. 描写法
サ. 景観美 シ. 形式的 ス. 写景描写 セ. 疑似的な ソ. 定められた
タ. 様式本位 チ. 基本的な ツ. 自然本位 テ. 48 ト. 客観的

P73 -76 【問題2】南画謎語画題と花材の正しい組み合わせについて、解答群より正しいものを選びなさい。
なお、解答用紙には記号で答えること。(5点×4)

画題	花材
四君子	①ク(梅)・竹・蘭・菊
芝仙祝寿	霊芝・水仙・②キ(竹)・霊石
蒼松寿古	松・③オ(南天)
四愛	菊・蓮・梅・④ウ(蘭)

解答群：ア. 柘榴 イ. 菊 ウ. 蘭
エ. 蓮 オ. 南天 カ. 霊芝
キ. 竹 ク. 梅 ケ. 柏

P96 【問題3】いけばな史・いけばな関連事項について、空欄に当てはまる正しい語句を解答群より選びなさい。
なお、解答用紙には記号で答えること。(2点×10)

1. 立て花について

①ク(しん)を立てることを重視した花形で、②セ(二代池坊専好)の時代までに成立、流行した素朴な形式のいけばな。③コ(座敷飾り)の花や仏前の供花として立てられた花。

2. 茶花について

茶席に飾る花。抹茶系の④サ(抛入れ花)、煎茶系の⑤キ(文人いけ)の2様式の総括的な名称である。茶の湯が精神的な文化として高められるにつれ、茶の湯の趣向に合った花をいけることが原則となっている。一般には、季節感を物語る山野の草木を、⑥ト(小座敷)にふさわしく、あっさりといけることを旨としている。

P110 3. 日本のやきものについて

奈良～平安時代には⑦タ(釉薬)を使ったやきものが中国から伝わった。唐三彩を模倣した⑧イ(奈良)三彩、緑釉のみの青瓷、愛知県の⑨テ(猿投窯)に代表される灰釉の白瓷などがこの時代に作られた。中世のやきものの生産は六古窯が有名だが、そのほかにも石川県の⑩チ(珠洲)などで須恵器系統の優品が作られた。

解答群：ア. 瀬戸窯 イ. 奈良 ウ. 三代池坊専好 エ. 役枝 オ. 轆轤
カ. 和座敷 キ. 文人いけ ク. しん ケ. 九谷 コ. 座敷飾り
サ. 抛入れ花 シ. 平安 ス. 窯 セ. 二代池坊専好 ソ. 立華
タ. 釉薬 チ. 珠洲 ツ. 生花 テ. 猿投窯 ト. 小座敷

筆記試験

【問題1】水ものについて、空欄にあてはまる語句下の解答群から選び、**記号**で解答用紙に記入しなさい。

※④と⑤は重複回答不可だが順不同

(2点×10)

p.61

1. 写景盛花に含められる。水生・①カ 水辺植物を用い、②シ 水面・水辺の風致景観を描写する。
2. 写景盛花③チ 様式本位にあつては、葉組・④テ 株挿し・⑤ト 花留めの位置と挿し位置・⑥ツ 取合せなどが厳密に定められ、約束に従っていける。主材として用いる場合、⑦ウ 蓮の一種挿しは⑧ス 遠景。他はすべて⑨ア 近景描写とする。
3. 栽培された水生植物同士、⑩サ 野生種と栽培種、水生ではない花材と水生植物の3通りの取合せが行われる。

解答群

ア. 近景	イ. 中景	ウ. 蓮	エ. 剣山	オ. 役枝
カ. 水辺	キ. 配色	ク. 三枚組	ケ. 自然本位	コ. 水中
サ. 野生	シ. 水面	ス. 遠景	セ. 山もの	ソ. 睡蓮
タ. 野もの	チ. 様式本位	ツ. 取合せ	テ. 株挿し	ト. 花留め

【問題2】「写景盛花様式本位」の基本取り合わせを下の解答群から選び、**記号**で解答用紙に記入しなさい。

※重複解答不可、①には主材が入る、③と④は順不同

(5点×4)

p.64

p.65

	季節	描写法	取 合 せ
1	春	中景	① エ 芽出し木苺 燕子花 ② イ 日蔭
2	夏	近景	燕子花 ③ オ 睡蓮 ④ キ 河骨

解答群

ア. 芽出し紫陽花	イ. 日蔭	ウ. 紫蘭	エ. 芽出し木苺	オ. 睡蓮
カ. 海芋	キ. 河骨	ク. 太藺	ケ. 雪柳	コ. 雲龍柳

【問題3】いけばな史・いけばな関連事項にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下の

解答群から選び、**記号**で解答用紙に記入しなさい。

(2点×10)

p.90

1. 小原流歴代家元の業績 流祖 小原雲心(1861～1916)

明治中期に、盛花を創案し、①エ近代いけばなの基礎を築いた。②セ投げ入れ花を体系化し、③オ瓶花という名で指導上に定着させた。④キ花会をデパートで行い、いけばなを一般に普及させるのに大きな功績があった。

p.96

2. なげいれ花 なげいればな

⑤イ 立て花のようにしんを立てる形式とは異なる花形で、⑥ソ 生活用器を花器として用い、ごく自然に花を⑦シ 挿し入れたような形の花。時代が下るにつれ、その形式にも異なりのあることから、元禄時代前、⑧ウ 貞享までのものを⑨ク「なげいれ花」、元禄から近代までのものを⑩コ「抛入れ花」、現在のものを「投入花」と使い分けることも多い。

解答群

ア. 立華(立花)	イ. 立て花	ウ. 貞享	エ. 近代	オ. 瓶花
カ. 享保	キ. 花会	ク. なげいれ花	ケ. 食器	コ. 抛入れ花
サ. 公募展	シ. 挿し入れた	ス. 整理した	セ. 投げ入れ花	ソ. 生活用器

筆記試験

【問題1】 いちはつの挿法、春の写景盛花様式本位の挿法について、空欄に当てはまる語句を解答群から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。選択肢は重複選択できません。（2点×10）

P.37 ・ いちはつの挿法

①シ 直立型に花型構成し、葉は②ウ 自然組を用いることを原則とする。葉が③セ 大 型である場合は、葉を組み直すことが許されるが、その場合、使用する葉の1/3程度にとどめる。自然組を用いる時は、二枚組および④ト 三枚組のみとする。葉を⑤サ 5組用いる場合は花は2本とする。

P.43 ・ 春の写景盛花様式本位

基本取合せ	描写法	花型	挿法の要点
木瓜・菜の花・日蔭	⑥ス 中景	傾斜型 または 直立型	木瓜は⑦カ 一株挿し とする。菜の花は、縮小挿法はとらないが、⑧テ 小 ぶりに扱う。下草に日蔭を敷く。
麦・菜の花・日蔭	近景	直立型	麦は、株になっている状態を捉えていける。⑨コ 7～13 本を目安に、⑩ソ 奇数 の本数で根元を寄せて挿す。下草に日蔭を敷く。

解答群	ア. 6組 カ. 一株挿し サ. 5組 タ. 一木挿し	イ. 7組 キ. 9～15 シ. 直立型 チ. 傾斜型	ウ. 自然組 ク. 遠景 ス. 中景 ツ. 偶数	エ. 組み葉 ケ. 近景 セ. 大 テ. 小	オ. 6～12 コ. 7～13 ソ. 奇数 ト. 三枚組
-----	--------------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------

【問題2】 「写景盛花様式本位」の基本取り合わせを下の解答群から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。選択肢は重複選択できません。（5点×4）

P.64		描写法	取り合わせ
	1	遠景	梅 ①ア 錦紅花つつじ 日蔭
	2	遠景	雲龍柳 ②ケ 燕子花 日蔭
	3	中景	小松 ③カ 乙女百合 日蔭
	4	近景	鳴子百合 ④イ 都忘れ 日蔭

解答群	ア. 錦紅花つつじ カ. 乙女百合	イ. 都忘れ キ. なでしこ	ウ. 鳴子百合 ク. つつじ	エ. 菖蒲 ケ. 燕子花	オ. 紫蘭 コ. 菜の花
-----	----------------------	-------------------	-------------------	-----------------	-----------------

【問題3】 技法と表現・いけばな史・いけばな関連事項について、空欄に当てはまる語句を下の解答群から選び、記号で解答用紙に記入しなさい。選択肢は重複選択できません。（2点×10）

P.116 1. いけばなは、室町時代に生まれた① セ（書院造）を背景に、② ケ（座敷飾り）の花から発展してきた。

P.90, 2. 流祖・小原雲心は、③ チ（明治）中期に④ キ（盛花）を創案し、近代いけばなの基礎を築いた。
119

P.105 3. 『The Floral Art of Japan』は、明治時代に来日した英国人建築家⑤ オ（ジョサイア・コンドル）が、日本のいけばなを海外へ紹介したもの。いけばなについて英語で書かれた最初の書と言われる。

P.27 4. 色彩盛花様式本位は、定められた⑥ ツ（主材）と挿法に基づいて、花材の定型的な⑦ サ（色彩美）を表現する技法

P.107 5. 尾形光琳は⑧ ク（江戸）時代中期の画家。本阿弥光悦・⑨ カ（俵屋宗達）の図案的な画風を学び、装飾の様式を完成させた。代表作に《⑩ ソ（燕子花図屏風）》などがある。

解答群	ア. 大正 カ. 俵屋宗達 サ. 色彩美 タ. 茶花	イ. 寝殿造 キ. 盛花 シ. フランク・ロイト・ライト チ. 明治	ウ. 立て花 ク. 江戸 ス. 花合わせ ツ. 主材	エ. 夏秋草図屏風 ケ. 座敷飾り セ. 書院造 テ. 景観美	オ. ジョサイア・コンドル コ. 配材 ソ. 燕子花図屏風 ト. 長谷川等伯
-----	-------------------------------------	---	-------------------------------------	--	---

筆記試験

【問題1】色彩盛花様式本位の次の主材の挿法と要点について、空欄にあてはまる語句を下の解答群から

p.30,31 選び、**記号**で解答用紙に記入しなさい。 ※重複回答不可。

1. 玉しだ

(2点×10)

葉 ①セ. 9～13 枚の奇数で、同寸とし、②サ. 扇状 に株挿しにする。七宝の大穴二つに挿す。

2. 紫苑

花を中心に大葉を三方から ③キ. 長短 をつけて挿し添え、④ト. 主枝 の花は葉より ⑤ケ. 高く使う。

⑥カ. 副枝 は ⑦ア. 葉 でとるように構成し、⑥の花は基準よりやや起こし気味に挿す。

3. 谷渡り

葉は ⑧イ. 8 枚の偶数で、株挿しにする。⑨エ. 6 枚の葉を ⑩ウ. 輪状 に挿し、中心に若い葉2枚を向かい合わせに挿す。七宝への挿し位置の規定がある。

解答群

ア. 葉	イ. 8	ウ. 輪状	エ. 6	オ. 4
カ. 副枝	キ. 長短	ク. 低く	ケ. 高く	コ. 7～11
サ. 扇状	シ. 花	ス. 枝	セ. 9～13	ソ. 株状
タ. 中間枝	チ. 客枝	ツ. 株	テ. 10	ト. 主枝

p.65,66

【問題2】「写景盛花様式本位」の基本取り合わせを下の解答群から選び、**記号**で解答用紙に記入しなさい。

※重複回答不可。

(5点×4)

	季節	描写法	取 合 せ
1	秋	近景	①オ. ほととぎす 小菊 日蔭
2	冬	遠景	②カ. 小松 寒菊(小菊) 日蔭
3	冬	中景	③エ. 実南天 寒菊(小菊) 日蔭
4	冬	近景	④コ. 万年青 寒菊(小菊) 日蔭

解答群

ア. 女郎花	イ. 木瓜	ウ. 竜胆	エ. 実南天	オ. ほととぎす
カ. 小松	キ. 藪柑子	ク. 米つつじ	ケ. 苔つつじ	コ. 万年青

p.108

【問題3】いけばな史・いけばな関連事項について、空欄に当てはまる語句を下の解答群から選び、

記号で解答用紙に記入しなさい。 ※重複回答不可、⑨⑩は順不同。

(2点×10)

文人画は、もともとは中国で在野の知識人が余技にたしなんだ絵をいうが、せまきは①ウ. 元時代末期に様式が確立した②ケ. 南宗画を示す。③ク. 江戸時代中期に、これら文人画、文人趣味が移入され、日本的な文人画、すなわち④コ. 南画が盛んになった。⑤ア. 植物画では、⑥ソ. 植物を擬人化したり⑦セ. 寓意を込めたりした画題が多く、⑧キ. 雅趣に富んだ画風が特徴である。代表的な文人画家に、柳沢淇園、与謝蕪村、⑨オ. 池大雅、⑩タ. 浦上玉堂、田能村竹田、谷文晁らがいる。

解答群

ア. 植物画	イ. 元時代中期	ウ. 元時代末期	エ. 江戸時代後期	オ. 池大雅
カ. 変化	キ. 雅趣	ク. 江戸時代中期	ケ. 南宗画	コ. 南画
サ. 尾形乾山	シ. 彩色画	ス. 哀愁	セ. 寓意	ソ. 植物
タ. 浦上玉堂	チ. 山水画	ツ. 狩野山楽	テ. 中国文人画	ト. 動物